

平成29年第6回

遠軽町議会定例会会議録（第2号）

平成29年9月11日（月）午前10時00分開議

---

◎本日の会議に付議した事件

会議録署名議員の指名について

日程第28

一般質問

---

◎出席議員（15名）

議長	18番	前田篤秀君	17番	杉本信一君
	1番	今村則康君	2番	岩上孝義君
	3番	佐藤昇君	4番	稲場仁子君
	5番	奥田稔君	7番	黒坂貴行君
	9番	岩澤武征君	10番	阿部君枝君
	12番	松田良一君	13番	竹中裕志君
	14番	秋元直樹君	15番	高橋義詔君
	16番	一宮龍彦君		

---

◎欠席議員（1名）

11番 山谷敬二君

---

◎列席者

町長	佐々木修一君	教育委員会 委員長	新山史賢君
代表監査委員	村瀬光明君		

---

◎説明員

総務部長	加藤俊之君	民生部長	舟木淳次君
経済部長	澤口浩幸君	経済部技監	内野清一君
総務課長	鈴木浩君	企画課長	佐藤祐治君
財政課長	大堀聡君	保健福祉課長	平間敏春君

《平成29年9月11日》

住民生活課長	小野寺 正 彦 君	子育て支援課長	小 谷 英 充 君
生田原総合支所長	門 脇 和 仁 君	丸瀬布総合支所長	只 野 博 之 君
白滝総合支所長	村 上 裕 和 君	会 計 管 理 者	荒 井 正 教 君
教 育 長	河 原 英 男 君	教 育 部 長	小野寺 健 君
総 務 課 長	大 貫 雅 英 君	監査委員事務局長	伯 谷 和 昭 君
選挙管理委員会事務局長	伯 谷 和 昭 君	農業委員会事務局長	河 本 伸 二 君

---

◎議会事務局職員出席者

事 務 局 長	安 江 陽一郎 君	事 務 局 主 幹	渡 邊 亮 司 君
事 務 局 係 長	小 玉 美紀子 君		

---

◎開議宣告

○議長（前田篤秀君） ただいまの出席議員は15人であります。なお、山谷議員より欠席の届け出があります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

---

◎会議録署名議員の指名について

○議長（前田篤秀君） 本日の会議録署名議員には、会議規則第125条の規定により、稲場議員、一宮議員を指名します。

---

◎日程第28 一般質問

○議長（前田篤秀君） 日程第28 一般質問を行います。

一般質問は、再質問より質問者の質問時間を30分以内として、一問一答により行います。

通告の順により発言を許します。

通告1番、佐藤議員。

○3番（佐藤 昇君） ー登壇ー

通告書に従いまして、私のほうから1点、質問いたします。

遠軽町出身の漫画家、安彦良和氏によるファーストガンダムの復活に向けた40周年大プロジェクトをきっかけとした町おこし活動などの展開について、質問いたします。

8月13日に遠軽町出身の漫画家である安彦良和氏が加わった「機動戦士ガンダム」40周年（平成31年）に向けて、意欲を示す報道がなされました。

安彦氏は、遠軽町出身の著名人でもあり、平成28年には遠軽高校等での講演を行ったり、遠軽高校が甲子園に出場した際には、直筆のイラストを提供してくださるなど、遠軽町に対しても好意的な取り組みを進めていただいています。

この報道をきっかけとして、遠軽町として、次の2点について取り組む考えはないか伺います。

一つとして、町として安彦氏が意欲を見せているこのプロジェクトに対して、安彦氏とも連携をとり、まちづくり、まちおこしに活用するような考えはないでしょうか。

二つ目として、安彦氏を初めとする遠軽町出身の著名人と協働しながら、今後のまちづくりに生かしていけるような取り組みを進める考えはないでしょうか。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） ー登壇ー

佐藤議員の、遠軽町出身の漫画家安彦良和氏による、ファーストガンダム復活に向けた

40周年大プロジェクトをきっかけとしたまちおこし活動等の展開についての御質問にお答えいたします。

まず、1点目の、町として、安彦氏が意欲を見せているこのプロジェクトに対して、安彦氏とも連携をとり、まちづくり、まちおこしに活用するような考えはないかについてですが、議員のおっしゃるとおり、安彦氏におかれましては、これまで町に対しまして、さまざまな御支援、御協力をいただいております、本町出身者を代表する著名人であると認識しております。

今回、ファーストガンダム復活に向けた40周年大プロジェクトについて、安彦氏への取材記事が報道されましたが、40周年を記念してアニメのリメイクされる可能性が高まり、意欲を示しているといった報道内容だけでは、この御質問にはっきりとお答えすることは、現時点では難しいものと判断しております。

しかしながら、安彦氏が携わったアニメ「機動戦士ガンダム」は、多くのファンの方々に長く愛され続けているとお聞きしておりますし、話題性や注目度が高まることが予想されるところであります。

このことから、まずは安彦氏御本人を初め、著作権を管理している会社などへ報道内容の確認をさせていただきますとともに、このプロジェクトが今後まちづくり、まちおこしに活用できるのかできないのかの情報収集にも努めながら、検討してまいりたいと考えております。

次に、2点目の、安彦氏を初めとする遠軽町出身の著名人と協働しながら、今後のまちづくりに生かしていけるような取り組みを進める考えはないかについてですが、町では、これまでも本町出身でさまざまな分野で御活躍されている方々とのつながりを大切にしながら、各種講演会や研修会、スポーツ教室などの事業を実施しており、関係団体とも連携を図りながらまちづくりに資する取り組みを行っているところであります。

本町出身の方の中には、マスコミに注目が集まりやすい芸術文化やスポーツ分野に限らず、行政や経済産業界などにも多くの方々が第一線で活躍をされております。

遠高の講演のお話も質問にございましたけれども、安彦さんも講演されております。安彦さんもそうでしたけれども、こういった講演についても、私のほうから、実は遠軽高校にもお話をさせていただいて、遠軽高校の卒業生の方とこういうことをやりませんかというお話をさせていただいた中でも進めているところでございます。そういった著名人の方々との協働につきましても、協働できるものは今後も協働してまいりたいと考えておりますし、また、著名人か否かにかかわらず、ふるさと交流事業などを通して、本町のまちづくりにお力添えをいただける方々との関係も、今、築きながら、できるところからまちづくりに生かしているところでございます。

以上でございます。

○議長（前田篤秀君） 佐藤議員。

○3番（佐藤 昇君） 1番目の町長の答弁については、基本的に受け止めておきたいと

いうふうに思います。

町長言われたように、全容、詳細が明らかになっていませんから、どうかかわりが持てるのかというのは、いずれにしてもまだ不明確な部分があります。

したがって、町長言われるように、ある意味では積極、能動的に、どういうプロジェクトで、行政としてどういうふうにかかわっていいのか、これらのところについては既に言われていますから、同じことの繰り返しになりますけれども、ぜひそうした形で進めていっていただいて、できるだけこの遠軽町のPRに資するような、そういう観点で進めていっていただければいいかなと、こんなふうに思っていますので、よろしく願いますというのは駄目ですから、ぜひやっていただきたいと思います。

確かに、著作権や著作権の壁、こういったものがあると思いますけれども、仮にそういうところと、例えばいろいろな連携をとることが難しいとすれば、そうした時期に合わせて独自で何かやるというようなことも考えていく必要もあるのではないかというふうに思いますけれども、どうでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） 安彦さんは、本当に全国というか世界的に有名な私たちの先輩でありまして、私も町長になってすぐか、なる前だったかもしれませんけれども、何とかガンダムをまちづくりに使えないかという考えも持っておりました。

例えば、検討したのが、コスモスに行く道路だとか、それから、町なかにも人の大きさぐらいのガンダムのいろいろなものを鋳物か何かで、ガンダムロードみたいなものをできないのかとか、それから、これは相当数字も出しましたけれども、東京のお台場に、ガンダムの実物大というか、ガンダムの実物というのはないからあれなのでしょうけれども、何メートルあるのですかね。すごい、とにかく巨大なガンダムがありまして、それを実は新しくするかちょっとどこかに移すかで、それを購入しようと思って、いろいろなところで当たったり、担当のほうにさせました。ただ、やっぱり、いずれにしてもおっしゃるとおり著作権の問題もあるのですけれども、金額の問題だとか、その後のメンテナンスの問題だとかで、これはちょっと実現には至っていないということになっているものもあるわけで、いろいろことも実は計画したのは事実でございます。

たまたま、何回も繰り返しになりますけれども、今回また新たに安彦さん側でやられるということなので、それに直接入れるかどうかは全くちょっと、多分相当いろいろなハードルがあるのかもしれませんけれども、そうでなくてもこちら側で何かできるようなことがもしあるとすれば、そして、それが本当に私たちの町に効果があるというようなことであれば、これからちょっとまたいろいろ情報収集などをして、検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 佐藤議員。

○3番（佐藤昇君） 独自の取り組みというようなことで、これは私の頭の中で考えて

いるだけですから、それがいいのかどうなのかということはありませんけれども、いずれにしても、ちょっとたまたま28年度の決算を見ていましたら、特産品の開発にかかわる助成金というのはゼロですよ。だから、いまだに特産品の開発の関係については、ちょっと話ずれますけれども、進んでいっていないというような状況も考えたときに、例えば町民から言われるのを待っているのではなくて、こちらのほうから、これはいいかどうかはちょっと置いておいて、黒曜石を使ったガンダムのペンダント等つくるとか、置物をつくるとか、こういったことなども考えられないのかとはいろいろ考えましたけれども、あと、今、もう冬祭りもやっていませんけれども、ガンダムの雪像コンテストをやってみるとか、それに安彦さんに審査委員長になってもらうとか、こんなような独自のことも少しいろいろなところと相談をしながら進めていくことも、一方ではありかなというふうに思いますが、どうでしょうか。そういったことも含めて。

○議長（前田篤秀君） 佐藤企画課長。

○企画課長（佐藤佑治君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

佐藤議員のおっしゃるように、いろいろな方々の御意見を頂戴しながら、そういったこと、できるかできないかも含めて、先ほど町長が答弁したように、そういったこと含めまして検討してまいりたいというふうに考えておりますので、御理解いただきたいと思えます。

○議長（前田篤秀君） 佐藤議員。

○3番（佐藤昇君） 最後の質問にしたいと思います。2番目に関連して、庁舎内にいろいろな政策研究とか、まちおこしを考えるグループとかありますよね。それで、提言もされているようですけれども、やっぱり庁舎内にそうした前向きにいろいろなことを考えていく、そういうグループがあるというのは、非常にある意味では町の宝ではないかとこんなふうにも考えています。そこら辺の方々との連携も含めて、以降の2番目にかかわっては、ぜひいろいろな角度から検討して進めていっていただきたいなど、こんなふうに思いますが、どうでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 佐藤企画課長。

○企画課長（佐藤佑治君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

ガンダム関連では、役場内職員でG-c l u bという政策研究の団体があることは承知しておりますし、平成23年に政策的な提言もいただいております。

もう一つ、まちKENということで、私も加入しておりますが、そういった団体とも情報交換しながら、検討してまいりたいというふうに考えておりますので、御理解いただきたいと思えます。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） G-c l u bというのが、町としても補助金まで出しているいろいろやっている組織もあるのですよ。そこへ、ガンダムの話になりますけれども、これも何点か出てきて、その中で安彦先生の絵の原画の展示をふぁーらいとでやってはという話も

あって、これも相当検討したのです。これも日光が絶対入らないようにだとか、いろいろたしか、それから運搬のことだとかがありまして、実現には至ってはおりません。

それで、役場内だけではなくて、これはいろいろなところから私たちアイデアいただくのは当然でありまして、ただ、これはずっと僕も昔から職員に対しても言っているのですが、そんなそんな地域おこしのアイデアが簡単に当たるわけじゃないのですよ。ただやっぱり、とにかく100出せと、これを一つ、二つ出してだめだったから、もう取り上げてくれないとかではなくて、そんな甘い世界ではないので、やっぱりこれはもう次から次へとどんどん出してくれと、これは別にそういう研究会じゃなくて、各担当課に、特に企画課なんかにも厳しく言っているのですけれども、とにかく100出せとアイデア、どんどん出してこいということで、その中でも一つでも当たれば、これはもうすごいことなので、そういう形で広く意見をとりながら、まちづくり、まちおこしについてはしていきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 以上で、佐藤議員の質問を終わります。

通告2番、岩澤議員。

○9番（岩澤武征君） ー登壇ー

通告書に従って、私から1点お尋ねをします。

子どもの通院医療費の助成についてです。

先日の新聞報道では、道内市町村の75%を越える自治体で、子どもの医療費の助成が行われています。小学生以上に対する独自の助成制度を導入している自治体は136市町村になっています。その背景にあるのは、報道によると近隣の市町村の横並び意識だと言われますが、医療費の助成が、子育て支援、少子化対策としても有効であるという認識が広まってきたことが、大きな理由であると私は考えます。本町でも、子育て世代の強い要望があります。

遠軽町は、さまざまな子ども・子育て支援事業を実施していますが、さらに充実して「子育てにやさしい町、安心して子育てできる町」だと町民の皆さんに安心してもらえるように、小学生以上の通院医療費の負担軽減策を実施すべきだと考えますが、町長の見解を伺います。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） ー登壇ー

岩澤議員の、子どもの通院医療費の助成についての御質問にお答えいたします。

子どもの医療費助成につきましては、8月23日付北海道新聞報道のとおり、道内136の市町村において、独自の助成制度を実施しているところでありまして、この中には遠軽町も中学生までの入院に対する助成を拡大して、実施しているというものも含まれているわけでありまして。

子育て支援や少子化対策につきましては、各自治体において地域の実情に応じ、自主性

を發揮し行っており、本町におきましても、予防接種等の助成や保健指導、社会教育などにおける支援事業、小中学校、さらには遠軽高校に対する各種支援等を実施することにより、安心して子育てのできる環境を向上させているところであります。

また、子育て支援や少子化対策の根本となる医療の充実につきましては、9月1日より遠軽厚生病院の産婦人科医師のさらなる確保がされたところであり、減員となっている小児科医師につきましても、診療に支障を来さないよう医師の募集や要請活動を進め、医療環境を整えていくことで、子育てのしやすいまちづくりに努めているところであります。

限りある自主財源の中で、赤ちゃんから高齢者まで、広範囲にわたる行政サービスを求められていることから、中学生までの入院に対する助成を引き続き行ってまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りたいと存じます。

なお、国が市町村を支援するなどの財源確保をするべきとの新聞報道もありましたが、現在、地方三団体におきまして、子どもの医療費助成制度に関して厚生労働省に要請活動を行っているところでもありますので、今後の国の施策の動向を注視しながら、子育て支援、少子化対策に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○9番（岩澤武征君） 各自治体でそれぞれ自分の町に合った支援策をやっているというのはそのとおりだと思います。遠軽町でも、今、話にあったように、中学生の入院については町として取り組んでいるということも事実です。

そういうことを私自身もよく理解した上でさらに伺いたいのですが、遠軽町では子ども・子育て支援法第61条に基づいて、2年前に策定された遠軽町の子ども・子育て支援事業計画があります。この概要の中で、次のように述べております。これは背景というところで述べられているのですが、本町においては、これまで、次世代育成支援を総合的かつ計画的に進めてきた、しかしながら、子どもと家庭を取り巻く状況が大きく変化している中、新しい支え合いの仕組みを構築する必要があると述べています。

一つ目ですが、この子育て支援事業計画が策定されてから、2年半が経過しました。この概要でいう、新しい支え合いの仕組みというのがどういうふうな仕組みを想定されていたのか。また、この新しい支え合いの仕組みの構築を検討されたのかどうか、ちょっと伺いたいと思います。なお、これ前の部課長の段階での話なので、新しい人にはちょっと難しいかなと思いますが、引き継ぎされていると思いますので、わかる範囲でお答えいただければなと思います。

○議長（前田篤秀君） 暫時休憩します。

午前10時22分 休憩

---

午前10時23分 再開

○議長（前田篤秀君） 再開します。



佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） 計画は、たくさん子育て以外にもございます。その中で、確かにいろいろな今後の計画ですから先のことをやるわけで、新しいとかいろいろ、私、一般論をちょっと話しさせていただきますけれども、文言としてでできます。これを、では具体的に本当にどうなのかという、これは個々の毎年の予算の中で、いろいろなことが議論されたりするものもありまして、今、ではこれをとらまいて、新しいのをどうということをやったのだと言われても、なかなかそういう議論になると、ちょっと進まないのかなというふうに思っております。

一般の方というのは、要求もいろいろ来るわけですよ。その中で、いろいろな制度もどうだこうだというのだけれども、やっぱり財源の問題とかいろいろな問題があって、実現に至らないものがあるわけですね。実現するのもあります。こういったものをやっぱり常に新しいものを考えながらやっていくわけでありまして、個々一つの新しいものを出せという会議をする場合もありますけれども、さっき私、企画課とかに特にアイデアを100出せとか言っているのと同じことで、そういうこともありますけれども、我々の仕事というのは、やっぱりそういう予算の中とかで常にやっていくという中身になっております。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○9番（岩澤武征君） わかりますよ。もちろん、そういうことだということは理解していますが、ただ、計画が立てられて、その具体的な中身として、しかも前提の抑えとして、新しい仕組みが必要なんだということを言っているから、もう2年半過ぎた今現在、それについて具体的な検討をされているのかどうかということ伺っただけで、自分の具体的な中身についての通告もしなかったので申しわけないのですが、考え方として、やっぱり確かに世の中が変わってきていると思うのです。

もう一つついでに言うと、この後に、子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを、社会全体で支援する環境を整備することを目的とすると、この子育ての事業計画、そういうふううたっているのです。それで、この社会全体で支援するというのは、私は、医療とか福祉とか介護の問題で、やっぱり国としても社会的に大きな問題だから、それを支えなければだめだということで予算を使ってやってきたわけですよ。そういう意味では、この子育て支援についても社会全体で支援するという、この認識は私、正しいと思うのです。そういう意味で、この子育てにはいろいろやっていると言うけれども、今、このことがすごく大きな問題になってきているのではないかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） そのとおりだというふうに思います。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○9番（岩澤武征君） 今年の2月にまとめられた町民アンケートの中の質問6に、地域

医療対策事業というのがあります。この医療対策については、最も多い317項目の意見が寄せられていました。そのほとんどは、その当時でしたから、産婦人科に関するものが多かったのですが、子どもの医療に関して切実な意見がありました。

例えば、小学1年から大人と同じ3割は厳しい、小さいほど病気になりやすいので、もっと病院に連れていきやすくしてほしい。隣町は小学生の医療費もゼロ円で、とてもうらやましく感じています。もう一例挙げると、ほかの県から引っ越ししてきました。子どもの医療費が、ほかのところは中学生まで無料とかありますが、田舎なのに幼稚園までしか対象ではないのにびっくりです。育児をするのに一番不満なことだと、こういう意見がありました。

先ほど言ったように、子どもの医療費が子ども世帯の切実な問題になっているのではないかなというふうに思うのです。これがこのような声として出されているのですが、今の時代、子育て支援がさまざまある中でも、一番大きなポイントとして望まれていることではないかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 小野寺住民生活課長。

○住民生活課長（小野寺正彦君） ー登壇ー

ただいまの質問に対して、お答えさせていただきます。

確かに、そういうような意見等もあるということは担当としても承知しておりますが、先ほど町長の答弁にもありましたように、トータル的に子どもの子育て支援については、考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 岩澤議員。

○9番（岩澤武征君） 町長も先ほど認められたように、さっき言いましたけれども、子どもと家庭を取り巻く状況が大きく変化しているということは、お互いに共通認識されたと思います。だから、町の子ども・子育て支援事業計画でも、やっぱり子育てを社会全体で支援する環境を整備することを目的とするとうたっているし、道内の75%の市町村で通院費の援助を実施しているのではないのでしょうか。これは入院も含めてなのですが。

また、毎日新聞によりますと、これは全国紙ですが、2016年、昨年4月1日時点で、全国で1,741市区町村のうち、中学生までが1,009自治体、58%に当たりますが、それから高校卒業までが378自治体、22%に増えているという記事がありました。遠紋地域で見ますと、湧別、佐呂間から雄武まで既に実施されています。

若い人たちの情報網は、広がるスピードがすごいと聞きます。遠軽町としても、そろそろ実施に向けて動き出さないと、遠軽は子育てする家庭に冷たい町だとして、若い世代に嫌われるのではないかと私自身ちょっと心配しているところなのですが、実際にいろいろな家庭を回って話を聞きますと、ほかでやっているのにどうしてと、これは高齢者の方も言います。もちろん若い人たちも、一番やってほしいことですよねというふうなことは言います。

先ほどの住民生活課長もそういう声は聞いていると言うのですが、先ほど財源のことをおっしゃいましたけれども、この5年間の決算を見ますと、約3億円から、昨年度は6億円ほどの黒字で推移していますよね。それで、高校生までとは言いません。あるいは全額無料にとも、一遍にできなければ3割負担を1割負担にするとか、これは多くの町村でやっていますけれども、そういうようなことでも、まず、中学生までの医療費助成について、真剣に検討しなければならない時期に来たのではないかというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） この質問は、確か2年ぐらい前にもほぼ同じ質問をお受けしていますし、岩澤議員ではなくて、その前にも確か受けていまして、こういった話の中でやっぱり一貫して言うのは、何回も繰り返しになりますけれども、まず一つは、町全体の子育ての事業として、私の政策では、それは生まれる前から、そして小中学校だけではなくて、高校までを一貫して考えています。

そういった中で、議員おっしゃったように、特にこの時期に、今回最後の議会になりますけれども、この時期に本当に無料にするとかと言ったら、確かに人気も私も若い人に出るのかもしれないけれども、やはり財源の話もありまして、今、基金はたまっておりません。だけれども、大型事業もやっていて、その償還もこれから出てくるのですね。そういったものを計算しながらやっていかなければいけない。

そして、私たち、これも常に私、答弁もさせていただいておりますけれども、本当に苦しい合併する前の、あのとんでもない財政状況を忘れてはいけません。もうだんだん12年たってみな忘れてきている、そこを我々、執行側としてやっぱり忘れてはいけません。だろうというふうに思っておりますし、また数字のお話たくさん教えていただきましたけれども、75%の中には何回も言いますけれども、遠軽町入っています。これ非常に、道新さんもうまい書き方しているなと思います。この表になってでている中学生まで24市町村、高校生まで40なのです。これ64です。これは全体の36%なのです。そして、この内訳、これも前回答弁したことと同じですけれども、遠軽町より大きな町はまずありません。中学生までの網走市、稚内市ぐらいではないでしょうか。赤平市だとかあたりは市だけれども、うちのほうが大きいのですから、芦別もそうかもしれません。深川はちょっと大きいかな。そういった中で、やはり財源の内訳の話になりますけれども、何で大きいところはできないかと言ったら、やっぱり交付税がそれだけ大きいところに、小さいところより倍の人口のところに、倍来ているかと言ったら、そうではないのですよね。これはいろいろな見方ありますけれども、どちらかと言ったら、小さいところには手厚くいっているわけです。

そういった中で、なかなかちょっと人口の多いところは、そこにまだ踏み出せないというところがありまして、まさに札幌市のコメントなんかも出ていますけれども、そのとおりであります。ただ、やはりそういったものに向けてやっていかなければいけない、子育て

て支援をさらに充実させなければいけないというのは、私も進めていきたいというふうには思っております。

ただ、今言ったような、今現在の事由、それから、今の時期になかなかちょっと私もそういうことをやりましょうとかというのは、言いづらいということもございますので、御理解を願いたいというふうに思います。

○議長（前田篤秀君） 以上で、岩澤議員の質問を終わります。

通告3番、阿部議員

○10番（阿部君枝君） ー登壇ー

通告に従いまして、次の点について御質問いたします。

紙おむつ類のごみ袋無料化について、近年、全国、全道の自治体で、子育て及び高齢者・障がい者支援の観点から、紙おむつ専用のごみ袋を無料交付する自治体等が増えていきます。

同趣旨で、ごみ袋の交付を行っている道内自治体の例を挙げると、旭川市では10リットル用を300枚、千歳市では20リットル用を最大300枚、札幌市は10リットル用と20リットル用のいずれかを選択し、有料ごみ袋を無料化交付しています。また、北見市では、本年6月から紙おむつ類の無料収集が始まりました。

本町においても、子育て及び高齢者・障がい者支援への経済的負担軽減の方策として、紙おむつ類の無料収集を行う考えはありませんか。

以上でございます。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） ー登壇ー

阿部議員の、紙おむつ類のごみ袋無料化についての御質問にお答えします。

遠軽町において、子育て及び高齢者・障がい者支援への経済的な負担軽減の方策として、紙おむつ類の無料収集を行う考えはないかとの御質問ですが、オホーツク管内の乳幼児に対する紙おむつ類のごみ袋無料化の実施状況は、ごみ収集が無料の西興部村を除く17市町村のうち7市町が実施しております。本町におきましても、予防接種等の助成や保健指導などの支援策を実施することにより、経済的負担の軽減を図っております。

次に、高齢者・障がい者に対する紙おむつ類のごみ袋無料化の実施取り組み状況ですが、ごみ収集が無料の西興部村を除く17市町村のうち、二つの市と町が実施しているところです。遠軽町では、高齢者・障がい者に対する経済的な負担軽減のため、在宅介護用品支給事業として、要介護3以上の方、または3歳以上の重度心身障がいの方を家庭で介護する家族に対し、紙おむつの支給を行っておりますが、この事業に該当しない要介護1以上の方につきましては、遠軽町社会福祉協議会が独自に支給をしております。

また、障がい者日常生活用具給付事業として、同様に紙おむつ購入やストマ装着の補助を実施することにより、経済的な負担の軽減を図っておりますので、御理解を願いたいと思います。

《平成29年9月11日》

以上です。

○議長（前田篤秀君） 阿部議員。

○10番（阿部君枝君） 御答弁ありがとうございます。

再質問させていただきます。

今回、質問に至りましたのは、隣の北見市から転入された子育て中のお母さんから、北見市は紙おむつがごみ無料収集されて非常に助かっていましたと、遠軽町も無料収集になりませんかとの御相談をいただきました。それで、里帰りされている方からもそのようなお話をいただきまして、早速、他を調べてみましたら、夕張では平成20年4月から、市で指定している紙おむつ類専用のごみ袋の交付を無料で行っているのですね。また、札幌市だとか旭川市、もうお調べでいらっしゃると思うのですが、子育て支援・介護支援の観点から、減免制度を設けています。

この北見市の取り組みなのですが、もう御存じと思いますが、子育て世帯や、先ほど言いました高齢者及び障がい者の経済的負担を軽減することを目的に、紙おむつ、布おむつ、紙パンツ、尿取りパッド、お尻拭き、これらを紙おむつ類として、普通の半透明の我々がリサイクルで出しているその袋に、燃やすごみの中へ出す方法なのですね。ですから、町のほうにはある意味負担をかけないやり方をやっていて、これはすごくいいことだなと思ひまして、早速質問させていただきました。

紙おむつは、家庭で減量できないものなのです。皆さん御存じなのですが、それと悪臭を放つということでは、長時間家に置いておきたくない、回収日ごとに毎回捨てるというものでもあります。

それで、何とか本町の、今回10月より試運転が始まる新ごみ焼却施設、遠軽クリーンセンター、ここに一部分別方法が変更になると広報でありましたけれども、ここに加えていただけないものかなと思ひますが、いかがでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 暫時休憩します。

午前10時41分 休憩

---

午前10時42分 再開

○議長（前田篤秀君） 再開します。

小野寺住民生活課長。

○住民生活課長（小野寺正彦君） ただいまの阿部議員の御質問でございますが、分別収集の変更につきましては、先般、周知をさせていただいたところでございますが、今の段階でごみの収集のほうを変えるというのは、ちょっと難しい状況にありますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（前田篤秀君） 阿部議員。

○10番（阿部君枝君） 難しいという回答をいただくのは非常に残念なのですが、これはもう本当に町民の方とお話ししますと、いずれお世話になると、ここにいる皆さん必

ず、お世話にならないことを望みたいのですけれども、そういうお世話になるものでもありますし、現在非常にそういう何かやられている方もいます。

そして、子育てという部分では、赤ちゃんのときほど一番紙おむつって使うのですね。ある程度の年代になってくると、数も少なく、そういう意味では、生ごみの中に入れてということもあるので、本当に子育て世代のときには非常に量も多く、一週間に2回の回収なので、臭いもあるということで、本当に御苦労されている。それで、少しでもぱんぱんにして、意味わかりますか。袋を少しもあかさないとぱんぱんにおむつを入れて出すのだそうです。それがビニール袋がパチンと裂けてしまって、散らかったこともあるのですというお話も聞きまして、それほど、やはり出す側にしたら、わずか何十円とはいえますけれども、少しでもいっぱい入れて出したいという、こういう皆さんの思いでもあります。

今のお話ですと、なかなか、考えてはいないということでしたが、町長にぜひ、お互いに今回再選に向けて頑張っていかなければいけないと思うのですけれども、再選されれば、ぜひ、このことは一番に取り組んでいただけると、町民に非常に喜んでいただけるものと思いますが、いかかでございますでしょうか。

○議長（前田篤秀君） 佐々木町長。

○町長（佐々木修一君） 今、担当が御答弁申し上げた、難しいというのは、10月1日からもうごみの収集が変わるのですよ。完成はまだ後ですけれども、正式な完成は。でも、住民の方にとっては、もう10月1日からごみの分別が本当にならんと変わって楽になると思うのです。そういった中で、そこにはもう間に合いませんよという意味でありまして、その先の話は、この先のことをもうちょっと、岩澤議員と同じですけれども、今ちょっと答えづらいというのが今の時期、私もできるのかどうかありますので、答えづらいというのはございます。

ひとつ、こういった子育ての面に関して言えば、例えば、おむつのことで言えば、おむつに限って言えば、僕も8年前、実は紙おむつ、当時まだあれでしたから、全部支給しようという形の政策を持ってやったのですけれども、町長になってから担当、うちの保健師のほうだとかいろいろ協議した中で、やはり確かに無料にすればそれはみんな喜びますよね。無料にすれば、税金だってタダのほうがいいし、そういうのは僕もいいと、そんなこと現実問題としてできるならですよ、いいのだけれども、やはりそういったことよりも、保健師体制のちょっとした確立だとか乳幼児健診だとか、確かそういったところをもうちょっと充実したほうが、結果として子育て支援になるというようなことで、この8年間進めてまいりました。ですから、そこら辺も含めながら、今後というのはちょっと言いづらいのですけれども、そういった中で、これも一つのこととしてやっぱり考えていかなければいけないのかなというふうに思っております。

それと、さっきも言いましたけれども、やっぱり生まれた子ばかりの人にいろいろな施策をして支援するわけではなくて、ずっともっと高校生まで上のことまで一貫してやっ

ていますので、ほかの町でこれをやっていたから、では、うちの町もやりますかと、では、ほかの町でやっていなくて、うちの町でやっていることをやめますかとか、これもいろいろそういう議論もありますよね。だから、確かに金額的にはそうかからないもので、予算的にはと思いますけれども、やっぱり物の考え方としてどうなのかということも、やっぱり私はこれからも考えながら、一つ一つ進めていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（前田篤秀君） 阿部議員。

○10番（阿部君枝君） 思いというか、町長の考えはよくわかりました。というのは、遠軽町は非常にごみの収集というのは、他の市町村よりはずっと厳格にやられまして、町民の方というのは本当に努力されて、今まで取り組まれたなと思うのですね。ですから、せめてこのものというのは本当にお金がかかりませんので、ぜひ実現していただきたいなと思います。この思いだけであります。

以上で終わります。

○議長（前田篤秀君） 以上をもって、阿部議員の質問を終わります。

以上をもって、一般質問を終わります。

---

#### ◎休会の議決

○議長（前田篤秀君） お諮りします。

9月12日及び13日の2日間は決算審査のため、休会としたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（前田篤秀君） 異議なしと認めます。

したがって、9月12日及び13日の2日間は、休会とすることに決定しました。

---

#### ◎散会宣告

○議長（前田篤秀君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これをもって散会します。

午前10時48分 散会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長 前 田 篤 秀  
署 名 議 員 箱 場 仁 子  
署 名 議 員 一 宮 藤 孝

《平成29年9月11日》